**資料①**

**令和2年（漆原年度）クラブ米山カウンセラーセミナー講演**

1. **①ご紹介を頂きました公益財団法人ロータリー米山記念奨学会（以下米山と略称）理事を務めております関口徳雄（浦安RC）です。**

**実はこの米山については、財団法人の時から長く監事を務められ、2012年公益財団法人の設立に貢献されたPDGの森嶋庸吉が米山に精通されているのですが、その森嶋さんを差し置いて私などが講演するなどおこがましいし又恥ずかしいのですが、鈴木委員長からのご指名ですので、情報などを語らせていただきます。**

**②米山の何たるかは、毎年発行されている「豆辞典」をお読みください。**

**斜め読みで１５分、30分もあれば読み切れます。**

**いつも思うのですが、この豆辞典は大変な優れもので、米山の意義、目的、米山の歴史と米山の事業内容、毎年の財務、特に寄付金の集まり具合など一目瞭然です。**

1. **私は理事2年勤め、もう一期あと2年勤めることになりました。**

**クラブでは何度も米山の委員長を務め、またカウンセラーの経験もあるのですが、理事となって中央の米山本部から米山を知ることになって、見えてきたことがあります。何が見えてきたのかといいますと。**

**数点あります。**

**第1、寄付という奉仕の意味**

**第２、米山がすんなり成立したのではないこと**

**第3、公益法人を維持するための行政当局との約束事の順守**

**第4、奨学生のみならず米山学友の大切さに思いを致したこと。**

**第５、法人の事務局体制が変わったこと。**

**7年間事務局長を務めた岩邊俊久氏が退職され、柚木さんという**

**「かながわ湘南RC」の会員が務めることになった。とのこと**

**第６、その他としての最新情報**

**第1について、（寄付という奉仕の意味）**

**米山については私もホームクラブで何回も委員長になりましたが、**

**いつもＲ財団委員長と寄付集めの競争だったことを懐かしく思い出します。**

**昔入会したころは、ロータリーは寄付団体ではないと教えられてきたのに、どうして寄付集め専門の委員会があるのかとか、寄付だから強制じゃないと言いながら事実上半強制的に寄付をさせられてきたような気がします。**

**今ガバナーを経験し、また米山の理事になって思うには、ロータリーは国際的な奉仕団体として「ロータリアンが個人として奉仕活動をする」場合と「ロータリアンが寄付をすることによってする奉仕活動」つまり寄付が奉仕活動だとするものがある。ということです。**

**例えば　Ｒ財団とＲＩの関係でいえば、財団は金を出すだけ、実際の奉仕活動をするのは国際ロータリーであってその構成員であるクラブです、つまり我々です。財団は金、RIは人です。ですから財団に寄付をするという行為がなければ、我々は財団に関する奉仕活動ができません。グローバル補助金やポリオがその典型でしょう。**

**米山もしかりです、我々の寄付がなければ奨学生への補助費も出ません。**

**だから私どもは「寄付という奉仕活動」と、「その集められた寄付金を使って個人的に奉仕活動する」つまり二つの奉仕活動をする団体であるということをあらためて知らされました。他の多数の奉仕団体は単に寄付をするという奉仕活動をするだけで「ハイさいなら」ですが、ここが違うところです。**

**更に申せば、ロータリーの奉仕の実践つまり寄付という行為には理念や哲学の裏付けがあるのです。（これは別の機会に）**

**従って財団と米山はロータリアンの皆さんの寄付が必要なのです。しかし寄付は寄付ですからあくまで任意です、そこで賢人が言うところによれば、ロータリアン一人ひとりがこの米山やＲ財団の意義ないしは素晴らしさを十分認識し理解したうえで「なるほどそうなのかと思えた人」が寄付をすればよいと言うのですが、私に言わせれば、義務に近い寄付があってもいいのかなと思います。（普通寄付はまさしくそれでしょう）**

**それでも寄付をする気持ちになるのは、どこかでロータリーに対する思い入れの度合いに関係するのかなとも思います。**

**第2について（米山の立ち上げ時、RIからクレームがついたこと）**

**約５０年前の米山財団設立時の歴史を振りかえったとき以下の事情がありました。**

**米山が昭和４２年に財団化された後にRIはローターリーの中で寄付受け入れ団体がR財団以外に増えることを嫌い，米山を廃止するか、そうでなくばロータリーの名を使用しての寄付集めは認めない、と言い出したとのことです。**

**私もそんなことがあったのか知りませんでしたが、今も昔もRIとすればそうでしょうね。**

**R財団以外に寄付受け入れ団体が増えるということは、例えが悪いですが、貞操（操）を二つに分けるようなもので、愛情が薄くなるではないですか、現に我々もクラブで1万円寄付しようとしたら、財団に5千円、米山に5千円というように分けて寄付をしますよね。ですから、米山のようないかに素晴らしい企画でも、これを簡単に認めたら世界のあちこちで我も我もと寄付団体を作ることとなり、さすればR財団は成り立たなくなるからです。**

**これに対し当時の元RI理事や米山の理事長らが米国に赴き、米山の意義や目的を説明するなどしてRI会長や事務総長と激しいやり取りをして、イギリスにも同じような例があったらしくこの前例を持ち出して、やっと認めてもらったとのこと、（最も背後には日本の実力があったと思うのですが）、即ち日本において「ローターリーの名を使用して寄付を集めてもよい」すなわち米山の存続を認めさせたと言う経緯があり、先輩ロータリアンのご苦労がしのばれるところです。**

**第3について（公益法人としての特典を得たことによる行政当局からの行政指導という名の、締め付け）**

**一昨年6月12日に第２２回理事会が開催されました。私はこの時が初めての理事会出席でしたが、公益法人が一体何をしているところなの大体かわかりました。**

**印象としては、公益法人は、国際理解と親善そして世界平和をミッションとして、日本全体を見据えた多地区合同奉仕活動をしているところ。そして特に定款の順守や、国からの行政指導を意識した米山記念事業の推進であるということです。（つまり税制上の優遇措置を守ろうとして一生懸命であること）。**

**一方地区の仕事は、大学の選考から、奨学生の選考、クラブに対しては、世話クラブやカウンセラーへの指導やお願いという、具体的な形での奨学事業を推進する現場担当者（奉仕活動の直接実施者）としての位置付けでしょうか。**

**特に印象に残ったのは、数年前の法人に対する「内閣府」からの行政指導ですが、（立ち入り検査を受けた）指摘事項がいくつかあって、その中で、法人と地区とRC （世話クラブ、カウンセラー）の三者間において、法人が地区に「大学の選考や奨学生の選考」から「世話クラブ」、「カウンセラー」を委託している関係は、一般企業体型としてのいわゆる「外部委託」と同じである、しかもその形は俗にいう「丸投げ」と認められ、それでいて事業費は年間14~15億円という多額のものであるから、事業体型の一層の明確な位置付けが必要とのこと（すなわち三者の業務内容と委託する事業の内容）、これについて「三者間（法人、地区、クラブ）で「業務委託契約ないしは覚え書」、つまり約束事を書面化するようにとの指導であったとのことでした。そこで理事会では早速「専門委員会」を立ち上げ、内閣府の意向を聞きながら法人としての業務委託規定（案）、を作成し、法人対地区との覚書を作り、次に地区対クラブの間での再委託の覚書（うち世話クラブとカウンセラー部分）を作成し、これを審議し、昨年８月の理事会で確定させたわけです。**

**したがって現在はこの覚書に準拠して、運営がなされているものと思われます。**

**これでもはや内閣府は文句をつけようがないということです。**

**第4について（米山学友の存在を見直そうという流れができたこと）**

**名誉理事長の小沢会員が財団創立50周年記念の冒頭でこう申しておりました。**

**「米山記念奨学事業の最大の資産は米山学友です」と、「これまでに127の国と地域、2万３９６人にのぼる外国人留学生を支援してきましたが、学友たちは、世界及び日本との懸け橋となって国際親善と世界の平和に貢献してます」。**

**又ロータリーの友(３０年７月号)よねやまだよりには「我々は、現役の米山奨学生へのお世話に目を向けがちですが、米山梅吉翁が目指した国際理解と平和に取り組むのは２万人の元米山奨学生と米山学友たちなのです」。**

**といって米山学友の組織及びその活動を高く評価しております。**

**一昨年８月２５日各クラブの委員長を集めた地区の米山セミナーで基調講演**

**された有名な親善大使「干永」（ウエイ）さんのお話の中でも①、米山学友からの寄付が３０００万円（現在約３５０００万円）を超えたとのこと又,②、米山出身のガバナーが３人も出たとのこと(台湾２名、韓国１名)と申しておりました。**

**６年前にRI理事会で学友の定義が拡大され、米山は日本独自の多地区合同プロジェクトであるにもかかわらず、米山学友もローターアクトや交換留学生と同じように「ロータリー学友」の一員として認められたこともあって、今のロータリー活動の中で米山学友の存在価値はますます増大するものと思われます。**

**特に最近では米山学友のロータリークラブがあちこちにでき、昨年7月のモンゴル学友会主催の大きな大会を経験しました。**

**おそらく会員増強とのからみでこれからはさらに米山学友の存在価値が大きくなるものと思います。**

**第5について（ベテラン事務局長の退任と事務局体制の変化）**

**７年間事務局長として君臨した岩邊さんが退任されました。これも議題の一つとしてとりあげられ、本年6月に書面決議による理事会で承認されました。**

**新しく柚木裕子さんという「かながわ湘南RC」の会員が務めることになりました。**

**したがって各地区に講師として重宝がられていた、（昨年も我が地区に講師としお越しいただいた）、岩邊さんがいなくなったことで、今後は法人からの講師派遣はお断りするとのことです。（その代わり理事か評議員が変わりに講師をやれとのことのようです）。**

**第６（その他の情報として）コロナによる異常事態として**

1. **数日前（７月１３日）に法人事務局からのメールでの情報で、**

**2019~20の寄付金は約13億3600万円でした（普通寄付、特別寄付合わせ）。コロナの影響で2月から寄付が集まらず、昨年より約7500万円減少したとの報告がありました。予算案を大幅に下回ったとのこと。**

1. **又つい２~３日前に事務局からのメールで、**

**コロナによる日本政府の入国制限等により、母国に一時帰国した新規、継続奨学生及び４月入国予定の海外応募奨学生,計５０名以上が、いつ日本に入国できるか見通しがつかない状況にあるとのことです。**

**これら生徒の８月以降の対応について常務理事会で決めたとのこと。**

**何せ在日留学生は、留学期間中の出国は最大９０日（年間）と決められており、これを超えて出国すると自動的に奨学生の資格を失うものと定められているとのことでしたが、この度は不可抗力だとして特例を認めたとのことです。**